

万協フロー MFシリーズ 施工要領書

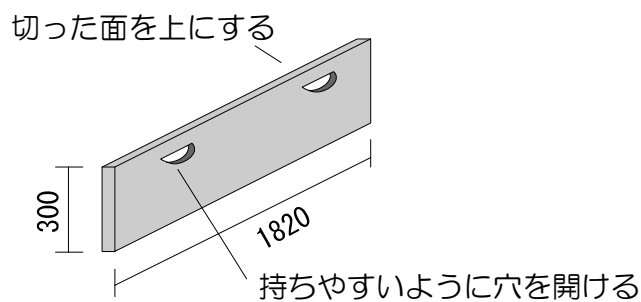
1.はじめに

このたびは弊社二重床をご採用いただきありがとうございます。
製品の特性を十分に生かし、安全で美しい仕上がりに施工して頂くために
本書をよく読み、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。

2.施工工具一覧

- 電動ノコギリ（丸ノコ）
- ドライバー（+）
- インパクトドライバー（ビス留めの場合）
- 水平器
- 水糸
- レーザー水平器
- スケール
- カッター
- 定規（下図参照）※1
- ほうき
- ちりとり

床パネルを半分に切って作ります。



3.製品仕様

①パーティクルボード（以下、パーティとする）

（厚さ）20mm（25mm、30mm）×（幅）450mm×（長さ）910mm（1820mm）

注意 万協指定のパーティをご使用ください。

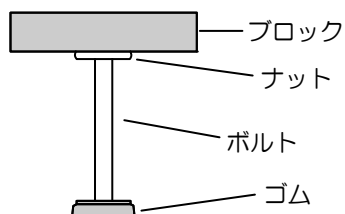
パーティはぬらさないでください。

直射日光の当たる場所に長時間放置しないでください。

②支持脚の構成

MF-240 以上の品番は、ボルトが太くなります。

ブロック頭部にブチルテープは、付属していません。



MF 型

③接着剤

中ブタを取り、ノズルの先端をカッターで切って使います。

冬季など低温度・低湿度のときは硬化しにくい場合があります。

注意 万協フローア指定の接着剤をご使用ください。

注意 使用の際は換気をよくしてください。

誤って目に入れたり、飲み込んだ場合、直ちに医師の診断を受けてください。

注意 標準入数の半数以下のご注文の場合、接着剤は同梱されませんので、別途購入してください。



④ビス（パーティ固定用（同梱））

パーティ厚 20mm 長さ 38mm（S38）、一脚あたり 4 本

パーティ厚 25・30mm 長さ 45mm（L45）、一脚あたり 4 本

4. 施工手順

4.1 施工を始める前に

- ・スラブ面にゴミがないように清掃します。
- ・床高に合った支持脚であるか確認します。
- ・パーチの枚数を確認します。
- ・床下配管の位置を確認します。
- ・フローリングの方向を確認します。(パーチを張る方向はフローリングと直角にする。)

注意 床先行工法の場合、間仕切壁の位置を確認し、パーチの目地と間仕切りの位置が合わないようパーチを割り付けてください。

ランナーは、パーチに直接固定してください。

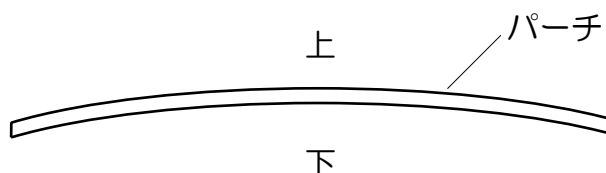
パーチの目地にビスがあたると、床鳴りの原因となります。

注意 スラブがぬれている場所、水たまりがある場所は、乾かしてから施工してください。

4.2 パーチの敷設

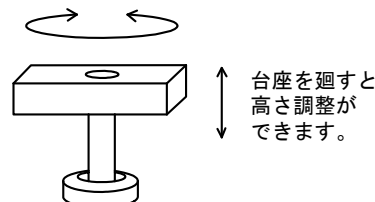
①パーチの反りを見ます。

パーチに反りがある場合、ふくらんでいる面が上になる様に施工します。



②台座を回し支持脚を適切な高さに調整します。

注意 パーチ同士の間隔を **8mm** にするため、ボルトが台座よりも上に出ることはありません。(ボルトが台座よりも出る場合には、パーチ同士の目地を8mmで施工できませんので、適正な品番を使用してください。)



③壁際の施工

施工方法は次の2種類があります。

- ・システムネダ
- ・在来根太

それぞれ手順がことなりますので指定の仕様に合わせて施工してください。

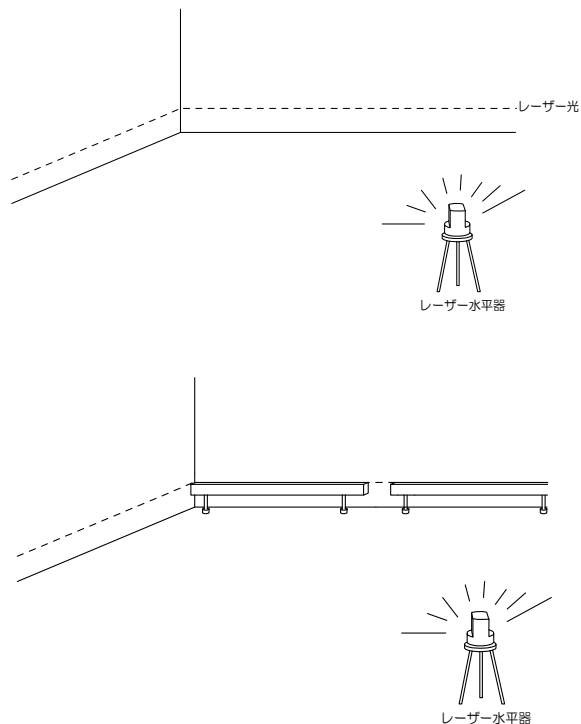
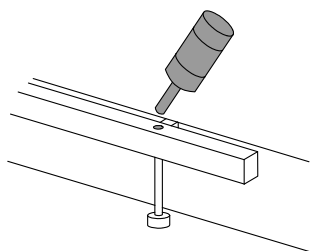
(1) システムネダの場合

施工方法は次の2種類があります。

- (a) 壁につける施工方法
- (b) パーチにつける施工方法

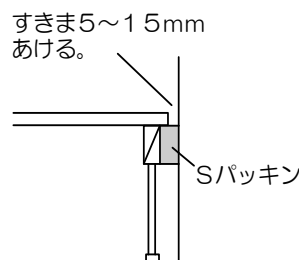
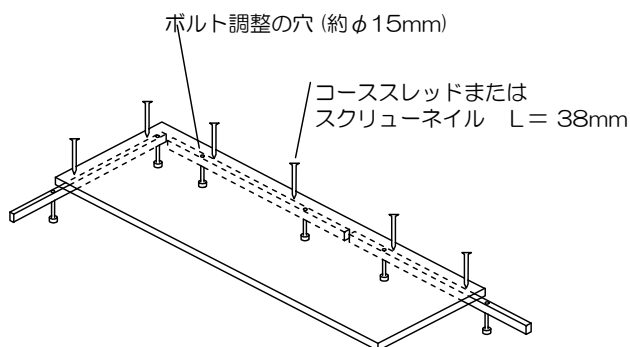
(a) 壁につける施工方法

レーザー水平器を設置し、壁にレーザーをあてます。
レーザーは、システムネダを設置する高さに合わせます。
システムネダをレーザーに合うように高さを調整し、配置します。
接着剤を注入します。



(b) パーチにつける施工方法

パーチにシステムネダのボルト調整用穴（約 $\phi 15\text{mm}$ ）をあけます。
次に、システムネダをパーチにビスで固定します。
システムネダはパーチを張りながら取り付けていきます。



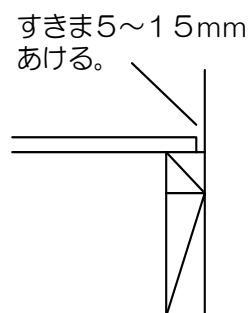
壁際部（システムネダ）

(2) 在来根太の場合

特別な施工は必要ありません。在来根太が正しく施工されているか確認します。（高さ・束ピッチ）。

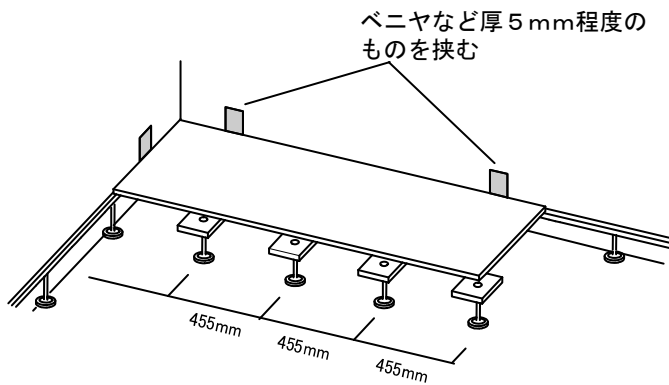
パーチは、在来根太にビスで約300mmピッチで固定します。

壁際の施工方法は以上です。

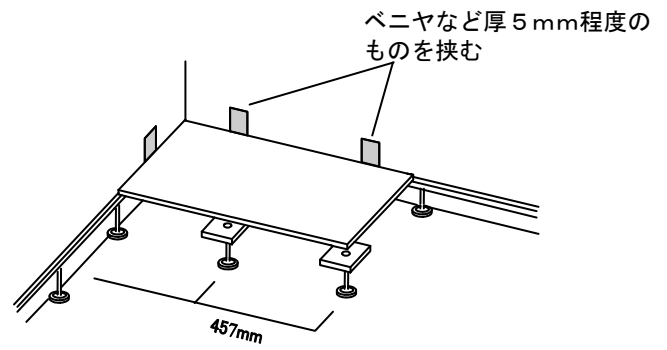


壁際部（在来根太）

④支持脚は約455mmピッチでパーチに貼り付けます。

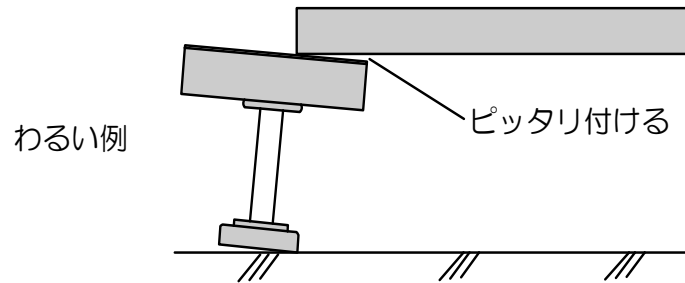


(パーチ450×1820mmの場合)

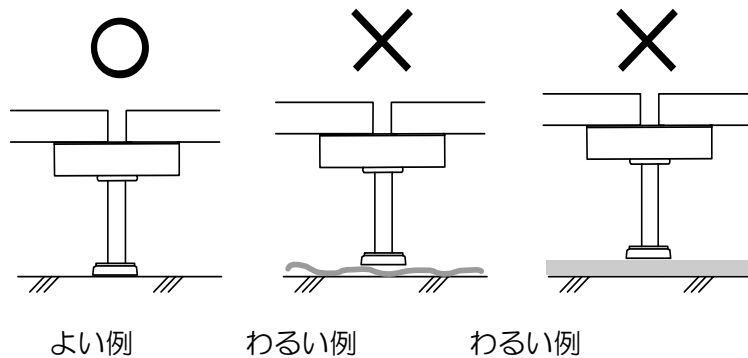


(パーチ450×910mmの場合)

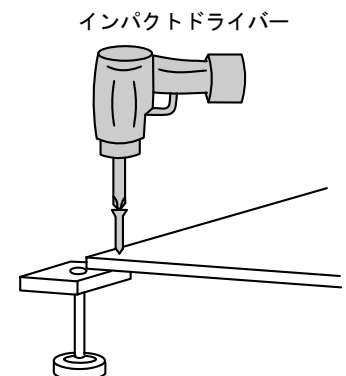
注意 支持脚はパーチにしっかり付けてください。
浮いていると床鳴りの原因になります。



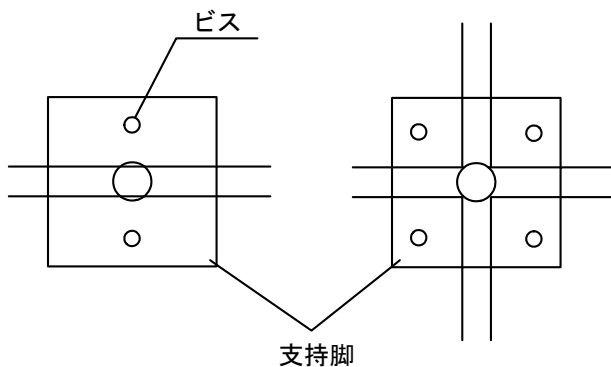
注意 支持脚の下には、物をはさまないでください。
床鳴りの原因になることがあります。
支持脚は、直接スラブに接するようにします。



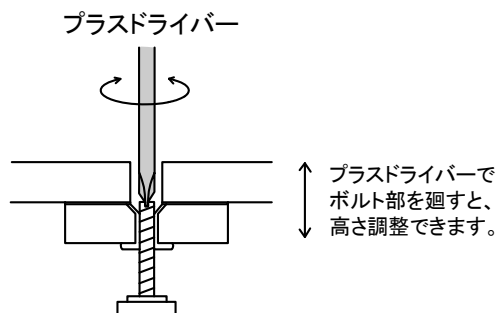
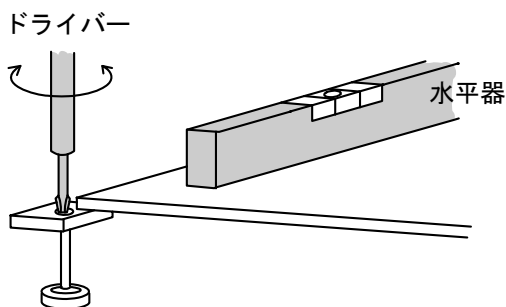
パーチを1枚張るごとに、ビスで支持脚をパーチに固定します。



支持脚のビス打ち位置は下図の箇所です。

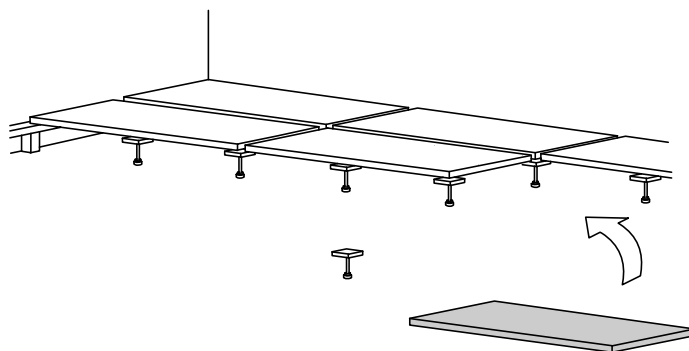


水平器を置き、パーチを水平に調整します。



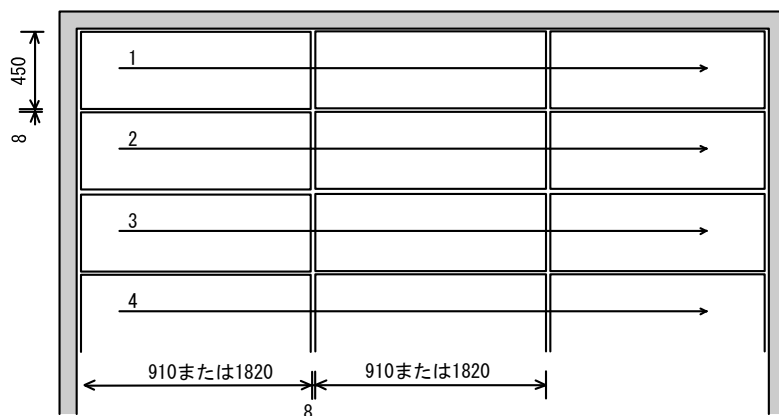
パーチ同士のすきま（以下「目地」という）は約8mmあけます。

（例：パーチ450×910mm）



パーチの割付、張る順序は右図のとおりです。

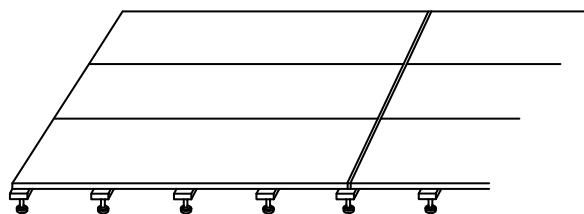
注意 張り仕舞いで、パーチの幅が200mm以下になる場合、前の列のパーチの幅を細くするなどして、床パネルの幅が200mmより細くならないようにしてください。



注意 パーチの表裏面に、キズ（ノコギリの切れ目など）のあるものは、使用しないでください。

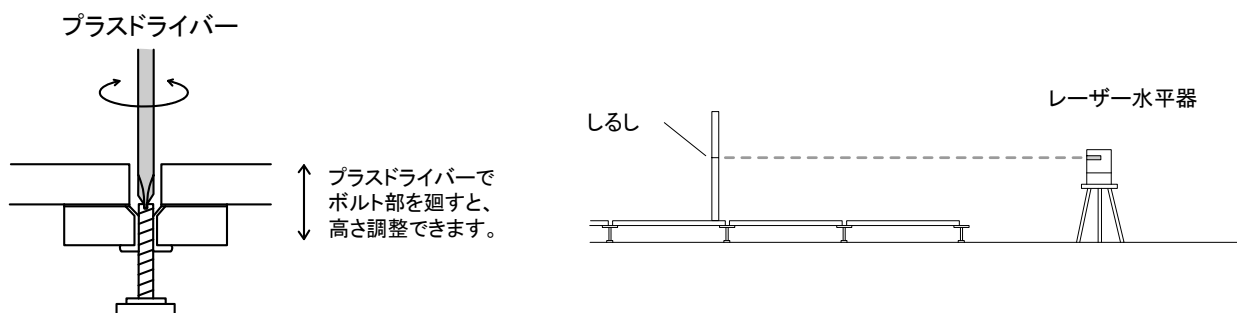
4.3 レーザー水平器によるレベル再調整

レーザー水平器を設置します。



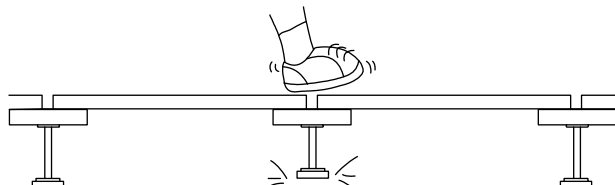
レーザー水平器

かね尺等を支持脚上に立て、ドライバーでボルトを回し、同じ位置にレーザーがあたるように高さを調整します。



4.4 床全体のレベル点検

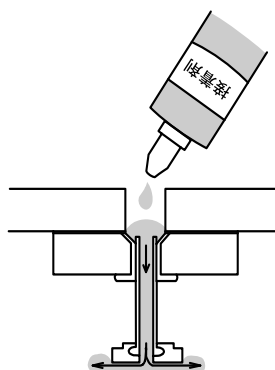
床のレベル調整がすべて終わったら床全体を歩いて、支持脚の「浮き」が無いか確認します。浮いている箇所は、支持脚がスラブに付くまで、ボルトを回します。このとき、パーチの水平を保つようにしてください。



支持脚の上を歩いて、他よりやわらかく感じたら、浮いている可能性があります。

4.5 接着剤の注入

すべての支持脚ボルト部に接着剤を注入します。



ボルトが出ている場合は、ボルトの頭部にノズルを挿して注入します。

接着剤は台座とボルトおよびスラブと支持脚を接着します。

接着剤が硬化するには、1～2日くらいかかります。この間、床上に重量物を置いたり、歩たりしないでください。

注入量の目安は H=200mm以下 → 3ml
500mm以下 → 5ml
500mm以上 → 7ml です。

5. その他

5.1 床に穴を空ける場合の処置

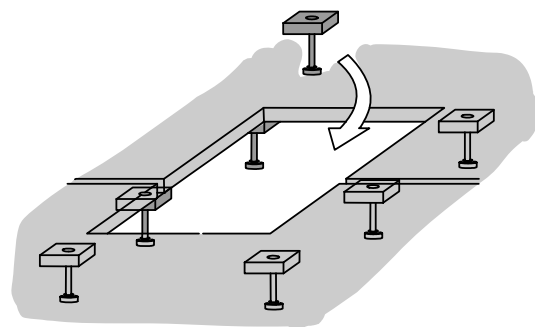
床下地に穴を空けると、その箇所の強度が低下します。

この場合の処置として下図のように支持脚を付ける必要があります。

支持脚の数は、その穴の大きさにより異なりますが、基本的には

- ・ 四隅
 - ・ パーチの目地部
- に取り付けます。

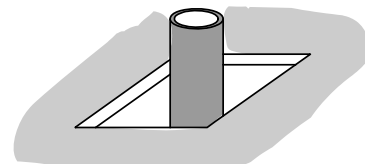
また、支持脚の間隔が457mm以上になる場合は、中間に支持脚を入れます。



5.2 床下配管の立上り部

配管周りは、配管とパーチが触れないよう20mmくらい離します。

注意 パーチが配管に触れると、床鳴りの原因になります。



5.3 仕上げ材について

目地同士の隙間（目地幅）が約8mmのため、フローリングだけでなく、タイルカーペットであってもパーチの上に直接施工することができます。

5.4 その他の注意事項

①水を使用する作業

- 二重床の上で、水を使用する作業を行う場合は、必ずビニールシート養生を行ってください。

②資材の仮置き

- 二重床の上に、資材を仮置きする場合は、1ヶ所にまとめず、分散させ、静かに置いてください。（目安としては200kg/m²まで）
- まとめて仮置きした場合、床のたわみが戻るまで時間がかかり、仕上げ材の施工に支障が出る恐れがあります。

③その他

- 二重床の上は、搬入経路等で使用しないでください。
- 二重床施工後、床上に強い衝撃を加えないでください。
建築資材の落下などにより、パーチが割れる場合があります。
- 風雨にさらされる場所への施工は、避けてください。
- 施工要領書に記載のない施工をおこなう場合は、事前にご相談下さい。

「仕様は予告なく変更することがあります。」